

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990200172		
法人名	株式会社ケアフォレスト		
事業所名	グループホームひなたの広場		
所在地	足利市五十部町490-1		
自己評価作成日	平成29年9月28日	評価結果市町村受理日	平成29年12月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6
訪問調査日	平成29年10月25日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ひなたの広場ではグループホームの特徴を活かした介護を行い入居者が役割や楽しみを持ちながら生活出来るように支援しています。又、町内の行事(祭り・文化祭等)に参加したりしています。過ごしやすい季節には外出行事を行ったり散歩したり楽しみを持った生活を提供したいと思っております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、市郊外の住宅地域の、近辺に公民館・神社・学校などのある幹線道路沿いに位置している。法人の事業所が市内に複数カ所あり、毎月1回、全体の主任会議を各事業所持ち回りで開催している。担当事業所がテーマを決め、講師を担い、感染症や接遇、認知症の理解、個別ケア等の勉強会や情報交換を行い、各事業所の質の向上を図っている。「家庭的な雰囲気大切に、利用者一人ひとりが楽しくその人らしい生活を送れるような介護を心がける」という事業所理念を心に置き、職員は利用者一人ひとりに寄り添い見守り、失敗や出来なかった事に対しても広い心で支援している。運営推進会議で情報を得て、神社の祭りや公民館のイベントに作品を展示するなど、地域との交流を図っている。利用者は、まんじゅうやおはぎなど、好きなものを食べたり、時には外食したり出前をとるなど、食べる喜びを味わっている。年間を通して近隣に花見に行ったり、道の駅にドライブに出かけるなど、外出支援も積極的にを行い、利用者の楽しみになっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内事務所入り口に事業所理念を掲げており職員・来客者の目に付くようにし実践出来るようにしている。	開設時からの理念を継続し、所内に掲示している。会議や申し送り時に職員間で共有を図り、日々の支援において意識しながら実践につなげている。その方に合わせた声かけをし、自宅と同じ雰囲気でも過ごせるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や同地区に住む職員に地域の行事を教えてもらい可能な限り参加している。子供神輿の休憩所として使って貰うようになっている又、散歩をしながら地域の方と交流がもてるようにしている。	自治会長からの情報提供や協力により、近所の神社の祭りや公民館の行事に参加する他、散歩の時に会話を交わすなど、交流を図っている。高校生のボランティアの訪問もある。今後、近所の幼稚園児や小学生との交流を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループとして年2回職員研修会を行う際、地域の方々にも声をかけ参加を呼び掛けている。地域の方からの相談等も対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	上記でも書いているが会議での情報を生かすようにし向上につとめている。	自治会長・民生委員・福祉委員・市職員・家族・利用者・職員の参加により、2か月に1回、ケアホームと合同で開催し、事業報告や意見交換を行っている。介護認定に関する質問が出されたり、地域の行事や店の情報提供があるなど、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通じて話できるようになった市担当者へ相談・更新申請に行っている。	運営推進会議に市担当者の参加があり、事業所の現状を把握してもらっている。直接市へ出向いたり電話で相談する機会も増え、連携を密にとり協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について会議や話し合いで実例をあげたり職員間で注意しあえるようにしている。	月1回の職員会議にて事例検討や勉強会を実施し、職員の理解を深め、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。言葉づかいに関しても職員間で注意しあうようにしている。立ち上がり時に手を添えたり、そっと見守ったり、嫌がる事はしないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士がお互いに注意しあい利用者に対し虐待のないようにしている。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員共に満足と言える程これらについて学ぶ機会を持っていない。今後学べる機会を持つようにし入居者の支援・活用につなげたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に本人・家族に説明を行いながら不安・疑問を尋ねて理解・納得していただくようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会・来所時に現在の様子を報告し、その際家族の要望・意見も聞いている。要望・意見は随時受け付けている。	家族の面会時や電話などで利用者の様子を伝え、その際に要望や意見を聞いている。運営推進会議に参加し質問されることもある。利用者の受診時の状況などの意見・要望もあり、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の申し送りや会議の時間で運営に関する意見・提案を聞く機会を設け反映させるようにしている。	管理者は、会議や申し送り時などで職員の意見や提案によく耳を傾けている。利用者の対応の仕方、重度化した利用者の食事量、形態などに関する意見については、職員間で話し合い、運営に反映させている。代表者は個別の面談の実施を検討課題としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持ち仕事ができるような環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内・外の研修に職員が参加出来るようにしてスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同グループ内での職員の交流の場を設け情報交換を行いサービスの向上に努めている。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安・要望等を聞き、把握し安心して生活して頂けるような関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安・要望等を聞き安心して施設利用が出来るような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員が本人・家族にグループホームの特徴を説明し必要とするサービスを提供出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が身の回りのすべてを行うのではなく入居者の方にも出来ることをして頂きお互いに暮らしているという関係を築くように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に普段の生活状況を伝え理解していただけるように努めている。又、施設行事に参加したり、家族と本人が外出出来るよう支援するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の関係を途切れなくするよう支援し関係が継続出来るようにしている。	家族や友人、近所の方との関係継続の支援に努めている。太田市のかかし祭りに行きたい、焼きまんじゅうを食べたい等の希望があり、家族の協力を得て実現させたこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者同士のやりとりに気をくばり良い関係を保てるように支援をしている。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても関係を大切にし本人・家族が相談等気軽に行えるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話・行動等から本人のニーズを理解し申し送り・会議等で話を行い共有し出来る限り意向に添えるように努めている。	世間話などなにげない会話の中で、一人ひとりの思いや意向を聞いている。帰宅願望や外出の希望の他、食べ物に関する希望が多い。意向の把握が困難な場合は、言動をみて本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のこれまでの暮らし・生活歴を把握し本人にあった過ごし方が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の情報を経過記録に書いたり、申し送りを行い情報の共有をし現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を作り本人にあった暮らしが出来るよう課題をあげ本人・家族と話をし意見を取り入れながらカンファレンスにて話し合いながら介護計画作成している	月1回の会議時に、家族に生活上の希望や要望を聞き、医師の意見を参考にしながら、担当者や職員と話し合い、ケアマネジャーが現状に即した介護計画を立てている。モニタリングは半年毎に行い、状態に変化があった時は、その都度見直ししている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の状態の変化・気づきを記録や連絡帳、申し送り等で情報の共有を行い、それを介護計画の見直しにも生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の希望の希望等状況を考慮し様々なニーズに取り組んでいる。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月のイベント行事等で地域ボランティアを活用したり、地域行事に参加するように楽しんでいただけるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に添えるように、かかりつけ医との関係を築くようにしている。又、本人・家族の要望に添えるように医療の紹介もしている。	従来のかかりつけ医のほか、希望により事業所協力医や365日24時間対応の医師をかかりつけ医にしている利用者も多い。2週毎の訪問診察があり、内科の他皮膚科なども受診できる。受診は家族の対応を基本としているが、緊急時などは職員が同行する事もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診や受診時に看護師に情報を伝えその時の状態に合った受診が出来るようにしている。又、小規模多機能の看護職員と連絡を取りながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時医療との情報交換を行うように努めている。又、面会時や電話などでも情報交換・相談を行い退院後のケアに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期の利用者の家族に対して早い段階から本人・家族と話し合いを行い、出来ること出来ない事を十分に説明し納得してもらい家族・医療等関係者とチームで支援している。	利用開始時に本人や家族の希望を聞き、医療行為が生じた時等に事業所として出来ること、出来ないことを伝え、話し合っている。病院への緊急搬送に備えて、本人・家族の意向を確認し記録した、緊急用記録書類を作成している。訪問看護等の利用により看取りの実績があり、職員は応急処置等の研修会に参加し研鑽を積んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所として年1回応急手当や初期対応の訓練を行っている。又、月の会議でも処置のやり方の確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署・防災会社立会いのもと避難訓練を行っている。その際、民生委員・福祉委員・町会長などの参加もある。	消防署、防災会社の立ち会いのもと、年2回、避難・防災訓練をケアホームと合同で実施している。内1回は運営推進会議に合わせて実施し、地域の方の参加もある。地域の方に役割を担ってもらうことや、連絡網への参加等を検討課題としている。米・食料の備蓄はある。	従来の訓練の他にも、定期的に自主訓練を行ったり、地域住民に訓練への参加や、役割、連絡網への協力を要請するなど、地域との協力体制の構築を期待したい。

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者一人一人の人格を尊重し言動に注意を払うように努めている。	職員は、利用者一人ひとりに対して、声かけに関しても傷つけないよう、嫌な思いをさせないよう配慮し、無理強いしない、行動を止めない支援をしている。排泄支援では、さりげなく誘導するよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が思い・希望が言いやすいよう職員が雰囲気作りに努め自己決定出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護者側の都合を優先せず本人の希望・ペースに合わせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回移動美容室を利用している。お気に入りの服を着てもらったり、化粧は本人が好きに出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	なるべく希望に添えるようにしている。入居者にも出来る事は一緒に行ってもらおうようにしている。	食事は職員が交代でその日の食材で作れ、特にメニューは決めていない。誕生会のケーキ作りを楽しむなど、利用者には好きなものを食べてもらう事を基本とし、外食したり丼ものを買ってきて食べることもある。利用者も食器拭きなど出来る事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に摂取量が違うので、それに合わせた食事量を提供している。摂取状況は健康チェック表に記入して確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行って清潔が保てるように支援している。必要に応じて歯科医往診・受診を支援している。		

グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	健康チェック表を活用し排泄パターンを予測して誘導したり、排泄のような行動をとったときは声掛け誘導している。しばらく行かない時にも声掛け誘導を行っている。	排泄チェック表から一人ひとりの排泄パターンを把握し、水分摂取を制限することなく、一人ひとりに合った支援をしている。声掛けや誘導はさりげなく行うように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな入居者には日中軽い運動を促したり水分を多めに取るようにしている。又、主治医に相談し下剤の調整をしてもらったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に1度の間隔で入浴出来るようにしている。なるべく本人に合わせてゆっくりと入れるようにしている。	午後の時間帯の入浴を基本とし、週2回を目安に希望に応じ職員が介助している。風呂場は広く、椅子も整備され、入浴剤や菖蒲・柚子湯も楽しみながら、気持ち良く入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活・その時の気持ちや状況を合わせて居室やフロアで過ごしてもらうようにしている。又、その人に合わせてTVを見たり話をしたりしてから入眠してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の内服については薬局で渡される処方箋のプリントを活用し確認している。各自誤薬の無いよう名前と薬が一致するよう確認している。飲み忘れの無いようにチェックシートに記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃気分転換が出来るように支援し役割や楽しみを持っていただけるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設周辺を散歩したりドライブに行ったりしている。買い物にも行けるように支援している。本人の希望があれば家族と相談し外出出来るように支援している。	天気や利用者の体調に合わせて近隣を散歩している。敷地内も散歩コースになっている。年間を通して、利用者全員で花見に行ったり道の駅に行ったりと、ドライブも楽しんでいる。家族と温泉などに行く利用者もいる。	



グループホームひなたの広場

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関してはトラブルにならない様に家族に了承を得て預かり必要に応じて使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば手紙・電話のやりとりが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が不安にならないようにいつもと変わらぬ空間にしている。又、時には季節の花を飾ったりしている。	居間は広くフラットでバリアフリーである。中心にテーブルが置かれ、周りに居室がある。壁には利用者の書や絵画、季節の飾り付けなどを施し、自宅にいるような雰囲気を作っている。テーブルの回りを歩いて運動することを日課とする利用者もいるなど、思い思いに心地良く過ごせる空間作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の関係性を見て気の合う同士で過ごしていただいたり、1人で過ごせたりと思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者が落ち着けるように本人・家族と相談し馴染みの物等を置いてもらうなど居心地の良い環境にするようにしている。	居室は6帖の洋室で、タンス・ベッド・エアコン・カーテンが備え付けられている。利用者には、壁に自分の絵や書を飾ったり、家族の写真や位牌や使い慣れたものなどを持ち込んでもらい、その人らしい居心地の良い居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内では安心して過ごせるように居室やトイレに札をつけたり環境に配慮して自立できるようにしている。		